

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

弱いぼくに

北陽小学校六年

相坂 あいさか

重太郎 しげたろう

ぼくのお母さんは、厳しい方ではないと思う。なぜなら、いつも笑って来てとても優しいからだ。ぼくは、物事を決める時は、必ずお母さんに相談している。相談すると、

「やりたいの？」

と、自分の気持ちを聞いてくれる。そこで、自分の気持ちを話すことで、自分の気持ちがはっきりする。こんな感じでいつもぼくの背中を押してくれるのだ。

背中を押されて始めたのが、野球だ。今は野球が、ぼくの生活のほとんどになるほど夢中になっている。週末は、一日中練習か試合だ。平日は自主練習。遊ぶ友達もほとんどが野球の仲間になっている。本やテレビもやっぱり野球のものが好きだ。そんな好きな野球を続けられているのは、両親のおかげだと思っている。心配性のぼくが安心して、野球を続けていられるのはお母さんがいてくれるからだ。週末は、朝早く起きて厳しい練習にもたえられるようにと、朝食もしっかり準備してくれるし、昼に食べるおにぎりも工夫して作ってくれている。

去年、練習の厳しさについていけず、食欲がなくなり、全く食べられないときがあった。そんな時に、僕の好きなオムライスやカレーのおにぎりを作ってくれたりして、少しでも栄養が取れるようにと考えて晩ごはんを作ってくれた。試合の時は、送迎をしてくれたり、一日中ぼくたちの応援をしてくれたりする。練習の日は、ぼく達がけがをしたり、倒れたりした時のために、交代で見守ってくれている。家に帰ると、汚れたユニフォームをゴシゴシときれいに洗ってくれて、いつも気持ちのいいユニフォームを着て練習に臨むことができている。調子がいい時も悪いときも、同じように優しく接してくれる。そんな風に、いつもいろいろなことをしてくれるお母さんは、ぼくの強い味方だ。

ぼくの好きな言葉に「努力できることが才能である」という言葉がある。お母さんはその言葉の意味を教えてくれた。イチローや松井秀喜という天才も、努力なしでは自分の才能を開花できない。むしろ、天才と

言われている人の方が死ぬほどの努力をしている。だから、「努力することの天才」なのだと説明してくれた。努力することは、一番苦しいことだ。だから、努力し続けることは、誰もができないことではない。だから、努力できることは才能なのだ。お母さんは、ぼくに努力できる人になって欲しいと思っているし、ぼくもそうでありたいと思っている。努力してがんばっている人は、みんなに応援される。ぼくもがんばっているから、お母さんは応援してくれているのだと思う。そして、ぼくががんばっている時、

「シゲはがんばっているよ。大丈夫。自信を持て。」

と、いつもぼくを認めて、励ましてくれる。ぼくはその励ましがあるから、がんばれるのだと思う。

先日、七月二十八日がお母さんの誕生日だった。ぼくは、日頃の感謝を込めて、何かできることを考えた。お手伝いをしたり、何か買ってあげたりするのもいいけれど、一番うれいのは、いつも応援してくれている野球を全力でがんばることだと思った。だから、翌日の公式戦で活躍しようと決意した。そして、本番の試合では、見事にホームランを打ってお母さんにプレゼントすることができた。試合後に、

「打ったよ。」

と、お母さんに言うと、にっこりと笑ってくれた。ぼくは、お母さんが喜んでくれているのがとてもうれしかった。

いつも優しく笑ってくれて、ぼくのことを一番に思ってくれているお母さんに育ててもらっていることに幸せを感じる。これからずっと、がんばり続ける姿をお母さんにみせたいと思う。